

令和 6 年度
みかど荘 事業報告書

介護老人福祉施設
短期入所生活介護事業
地域包括支援センター

1 はじめに

令和5年5月より新型コロナウイルスは、第5類へ移行し少しずつ規制が緩和され仕事や日常生活が元に戻りつつあります。但し未だに施設でクラスターや感染者の報告があります。

また最近では、はしかの流行や外国での新たな感染症が報告されるなど、さらなる注意が必要と思われます。継続的に職員の健康・衛生管理面に注意を求め利用者様の安全・安心に努めてまいります。

今後も法人としては、全職員に勤務中のマスク着用と自己健康管理に努めるよう指導してまいります。

今後も新型コロナのみならず、他の感染症などにも警戒し、施設運営に取り組んでまいりたいと思います。

本年度の各事業報告を次ページ以降に取りまとめましたのでご報告致します。

2 介護サービス提供への取り組み結果

(1) 特養・短期入所サービスの取り組み報告

特養においては、最低目標の入所者 50 名にしておりましたが、顕在的な入所者の確保に苦慮しました。

①介護支援専門員・生活相談員としての報告

- 施設サービス提供の包括責任者として、ご利用者様及びご家族様からの苦情や相談があった場合、解決すべき問題を検証し、迅速に改善を図りました。
- ご利用者様並びにご家族様から希望・要望を聞き、施設介護サービス計画書へ反映させました。
- 施設サービス計画書作成後は遅滞なく、ご利用者様・ご家族様へ確認・承諾を受けました。
- 退院時や状態変化があった際には適宜見直しを行い、一人一人に適切なサービス提供がなされるよう努めました。
- ご利用者様・ご家族様への介護支援に関する様々な情報提供と介護保険関連や関係法令の情報提供に努め、ご利用者様とご家族様との信頼関係の構築に努めました。
- 施設職員からご利用者様に対するサービス情報を抽出し施設サービス計画書の質を高めました。
- 情報の伝達・共有を行える組織が構築できるよう努めました。
- 終末期のケアの質が高まるよう、ご家族様の意思を適宜確認しながらケアに努めました。

②介護職員としての報告

1 階フロアー

- 館内の清潔保持に努めました。
- ご家族へ理解して頂き感染症予防を念頭に面会を行いました。
- 施設サービス計画書をもとにご利用者様主体の介護サービスを提供しました。
- 様々なレクリエーションを行い利用者様に日々楽しんでもらえるよう努めました。

2 階フロアー

- ご利用者様に張り合いのある生活を送ってもらう為にレクリエーションとして様々なゲームを行いました。
- ご利用者様の状態に気を配り小さな変化にも注意して観察しました。
- 他職種と連携をとりながら業務を行いました。
- 居室や廊下等の清掃を行い清潔保持に努めました。
- 施設のルールをもとにご家族様に理解頂き可能な範囲での面会を行いました。

③看護職員としての報告

- 適切な巡回のほか連絡・報告を受け、ご利用者様の状況を把握し異常の早期発見に努めました。
- 施設内でのインフルエンザやノロウイルス、新型コロナウイルスの感染防止に努めました。
- 新型コロナウイルスの感染防止対策のため、歯科回診は居室ではなく 1 階ホールにて実施しました。
- 内科回診を年間予定通り実施しました。
- 職員健診に際し、通院・再検査が必要な職員に対して指導を行いました。

《入所者健康管理年間報告》

- ・ 定期回診（内科） 毎週火曜日
- ・ 健康診断 入所時・随時
- ・ 採血 随時
- ・ 胸部レントゲン（年1回 5月実施）
- ・ 体重測定 毎月実施
- ☐ 検温 週2回入浴日 他随時実施
- ・ 血圧測定 週2回入浴日 他随時実施
- ・ インフルエンザ予防接種 10月～11月実施
- ☐ 新型コロナワクチン接種 10月～11月実施

《職員健康管理年間報告》

- ・ 健康診断 全職員対象（採血・採尿・胸部レントゲン・血圧測定）12月実施
夜勤者対象（採血・採尿・血圧）5月実施
- ・ 給食職員細菌検査 毎月1回（夏季2回）提出
- ・ インフルエンザ予防接種 11月～12月実施
- ☐ 新型コロナワクチン接種 実施せず。

④栄養士としての報告

- 身体や嚥下状況に応じ、個々に合った調理法の選択・食材のサイズの調節を介護主任や看護師と検討し提供しました。
- 嚥下能力を考慮したトロミ剤を使用し、誤嚥防止に努めました。
- ご利用者様の食事摂取量や体重の推移を毎月把握し、食事量や食事形態を看護師、介護士と検討しました。
- 食事時にはミールラウンドを行い、ご利用者様の食事状況の把握に努めました。フロアで多職種の意見を聞き、ご利用者様に適したより良い食事提供ができるように努めました。
- 年間行事での行事食の提供、季節の食材を取り入れることで、四季を体感できる食事を提供しました。
- 盛り付けや食器の使い分けにより、「目でも楽しめる食事」を目指し提供しました。

（2）地域包括支援センターの取り組み報告

- 介護予防の取り組みとして、公園体操を地域の老人ホームやグループホームと協力して行いました。
- 野川いこいの家や南台団地での介護予防体操を再開し、定期的に開催しました。
- 野川西団地での介護予防体操を定期的に開催しました。
- 個別ケース支援では、生活上の様々な問題を抱える世帯支援を行いました。
- 毎月地域住民や専門職と地域の課題について話し合う場をつくり、課題への対応などについて検討しました。

(3) 各種委員会・職員教育・研修報告

①入所判定委員会

- 新規ご利用者様を決定する際、入所希望者の状態・緊急性・空き居室の状況・介護度・市の入所判定指針などを検討し入所の優先順位を決定しました。
- 要介護度 3 以上の方を優先的に案内し、地域に対しての貢献度を高めるよう努めました。
- 要介護度 1・2 の方でも入所の必要を認める際には、理由を明確にし、記録として入居申込書の様式 3・4（特例条件に該当する意見書）とともに保管しました。

②行事委員会

- 季節の行事には行事食を提供しました。提供する食事にカードや箸袋を添え、見た目にも楽しんで頂けるようにしました。
- 毎月 1 回、誕生日の特別食の提供をしました。
- コロナウィルス感染予防の為、各フロアでのレクレーション等の実施をしました。

③苦情処理委員会

- ご利用者様、ご家族様等から出た苦情申し立てについて、施設長を中心に施設内で十分な調査、検証を行い十分な説明と改善を図り、サービス提供の在り方・顧客満足度向上につながるサービスの検討を行い、再発を防止するための対応を行います。

④ケアプラン作成委員会

- 個々のご利用者様が最大限の能力を発揮し自立した生活が送れるよう日常の問題を抽出し、解決に向けた取り組みをわかりやすく具体的に示しました。
- 現場職員とよりよい連携が図れるよう日ごろから連絡と相談を密に行いました。
- ご利用者様の状態変化に対し速やかな施設サービス計画書変更を行い、ご家族様へ同意を頂きました。

⑤給食委員会

- 他職種の職員と連携を図り、個々の状態を把握しながら食事形態や食事内容について検討を行いました。また、利用者様に安心して食べて頂けるように電解水を活用し、衛生面の徹底や、トロミ剤の質の向上に努めました。

⑥研修委員会

- 事故防止・褥瘡予防・感染症予防の研修に関しては年 2 回、各異なる資料を新規に作成し実施、研修内容に対し考察を深めました。
- 本年度より BCP 研修・訓練と感染症訓練、虐待防止研修を年 2 回、異なる資料を作成し実施。緊急時の対応について理解を深めました。
- 新規職員に介護主任を中心にして介護業務、知識、情報を入職時研修（身体拘束廃止・虐待防止・感染症予防・事故防止・BCP【災害・感染症】）として指導を行い、その後も評価シートを作成し期間を設け評価指導を実施致しました。

⑦排泄・補水委員会

- 日々のモニタリングを介護職員、看護職員にて連携しご入居者様への適切な食事形態、トロミ量の提供を行いました。
- ご入居者様ごとに排泄状況、形態の把握に努め、排泄状況の情報を職員間で共有し、定期的に見直しを行い、変更があった際にはご入居者様毎にアウター、パッドを都度変更に努めました。
- サービス提供の一定化を目指す為に、ご入居者様の ADL や日々の変化を介護職員と看護職員で連携し状況把握に努めました。

⑧業務委員会

- ご利用者様の状態にあわせた適切な方法で快適に入浴をしてもらいました。
- 入浴介助方法を見直し効率的かつ安全に入浴して頂く様に努めました。
- 他の委員会や職種と連携をとりながら円滑な業務が行えるように創意工夫をしました。
- 居室担当を割り振り円滑な業務が行えるようにしました。
- タイムスケジュールを更新したことで、新規職員へやるべき業務の把握や1日の流れを曜日ごとで理解できるよう努めました。

⑨生産性向上委員会

- 生産性向上推進体制加算を申請するにあたり、委員会の活動内容や必要な議題をきちんと把握し、新しく委員会を発足しました。
- 介護機器ソフトの『ほのぼの NEXT』を活用し、日々の介護及び看護日誌や身体拘束記録のペーパーレス化を行い、業務の効率化を図りました。
- 介護機器ソフトの点検を施設長補佐が担当し、定期的なメンテナンス及びバージョンアップを行い不備に備え円滑な業務のサポートを行いました。
- 介護機器ソフトを活用して（日誌や身体拘束記録のペーパーレス化等）得た時間で、利用者の生活の質の向上（レクリエーション、環境整備等）や安全対策（見守り強化等）に従事しました。
- 従業員の負担低減や勤務状況の配慮として個人ごとの毎月の有給取得状況や時間外労働の把握を行い、定期的な聞き取りも実施しました。職員の労働に関する現状の把握に努めました。
- 業務改善の立案、実行、評価を行いました。結果からの改善点や立案の見直しを行い、業務の効率化向上に努めました。
- 職員に対しての研修を研修委員会と連携し、施設内研修にて知識を深めると共に、日々の OJT を活用し、介護機器ソフトの操作の仕方や内容の精査、運用スキルアップ指導を行いました。

⑩事故防止委員会

- 事故の原因を多角的な観点から細かく分析し主任、委員会、相談員を中心とし対策をたてました。
- 事故の原因は1つではなく、いくつかの要因が重なっていることを認識しました。
- 赤外線センサーを1人に1台ではなく、2台使用して対策をとるなど今までにない対策を試行し、職員から色々な発想を取り入れました。
- 研修委員と連携を図り、年2回以上の研修と入職時の研修を実施しました。
- 研修の中で事故報告書の書き方、4M分析の理解を深めました。

⑪身体拘束廃止委員会

- やむを得ず身体拘束を行う際は、緊急カンファレンスを行い切迫性、非代替性、一時性の 3 要件を満たしているか判断し、満たした場合のみご利用者様、ご家族様に対し職員が身体拘束に関する説明を行い、ご家族様の同意を得た時のみ手順を踏んで対応しました。
- 年 2 回の身体拘束に関する研修を行い、身体拘束への基本理解を深め、施設内で実施している身体拘束の内容に沿った事例検討演習も行い、職員からの意見などを採用できる環境作りに努めました。
- 現在、やむを得ず身体拘束を行っているご利用者様のモニタリングに基づき、切迫性、非代替性、一時性の 3 要件を満たしているかのカンファレンスを多職種で連携し拘束の要否を検討しました。

⑫虐待防止委員会

- 施設長、主任、相談員が中心となり施設が定めた虐待防止指針をもとに虐待発生防止、及び早期発見に努めました。
- 年に 2 回以上の研修を実施し虐待についての知識、理解を深めました。
- 虐待についてのセルフチェックを行い、結果をふまえ研修を行いました。

⑬感染症予防委員会

- 感染症対策を日頃より実施していた結果、ご利用者様及び職員並びに職員家族のインフルエンザ発症はありませんでした。
施設内での新型コロナウイルスの発症も入所者及び職員共にありませんでした。
- 新型コロナウイルスの対策について医務と連携し、再度全職員を対象に周知を行い、意識向上と対策に努めました。
- 感染症予防について、研修委員と連携し年 2 回の研修及び訓練を実施し理解を深めました。

⑭BCP（災害・感染症）対策委員会

- 令和 6 年度より経過措置期間を終了し発足しました。自然災害時、感染症発生時における事業継続計画に基づく研修、机上訓練を年 2 回ずつ実施し知識、理解を深めました。
- セコムトラストシステムズへの職員の登録を行い、非常時の連絡手段として迅速に対応できるよう努めました。
- 施設長、施設長補佐にて災害時マニュアルを作成頂き、閲覧することで非常時における対応についての理解を深めました。

⑮環境整備委員会

- 年間の予定表を制作し、予定表に沿う形にて館内清掃を介護職員、他の職種の職員と共に行いました。
- チェック表を用い、毎月環境整備の進行状況の把握、実施状況を確認できるよう努めました。

⑯口腔ケア委員会

- 入所者様毎に、残存能力に沿った個別性のある口腔ケアの実施に取り組みました。
- 施設内研修を実施し口腔ケアの知識や技術を向上させるように努めました。

- 新入職員に業務や研修を通して口腔ケアの知識、技術向上を行いました。
- 義歯の不具合等発生時、看護師と連携し、必要時に歯科往診で対応しました。
- 月1回に口腔の健康状態を評価及び情報共有書を作成しました。
- 訪問歯科医から年2回（4月・10月）口腔衛生に係る技術的助言及び指導を書面で受け、口腔衛生管理体制計画を年2回（4月・10月）及び入所時に作成しました。

⑰医療ケア委員会

- 入居者様のモニタリング、評価を適宜行い、個別に吸引・経管栄養ケアプランを看護師と連携し実施しました。
- 研修を通して職員全体の看取りの利用者様への対応や知識を向上させるようにしました。

⑱衛生委員会

- 職員の健康障害を防止する為の対策を調査審議し、心身の健康に関する啓発に努めました。

⑲褥瘡予防委員会

- 入所時、褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書を作成しました。計画書に基づき実施した結果、新たに数名の入居者に褥瘡発生発見し、適切な処置を継続し、改善、治癒に至っています。
- 褥瘡発生時は往診医と連携を図りながら早期治癒に向けて取り組みました。

⑳安全委員会

- 喀痰吸引等業務の実施計画や実施状況の管理を行いました。
- 介護職員による喀痰吸引等業務が安全に実施されるように取り組むことで、喀痰吸引等実施時の事故の発生はありませんでした。

㉑見守り機器を安全かつ有効に活用する委員会

- 介護主任及び委員会担当で協議した内容を元に、毎月見守り機器使用の分析、モニタリングを実施し、危険行動の事前察知や事故防止活動、職員の負担の減少に繋がる業務活動を実施致しました。
- 新入所の利用者様の行動や既往、生活リズムのモニタリングを経て、転倒リスクを分析しました。その人に沿った個別ケアの実施と共に見守り機器の活用を行い、事故無く安全に生活出来る仕組み作りに取り組みました。

㉒施設外研修報告

今年度は、ありませんでした。

(4) 意見・要望・苦情に対する対応報告

ご利用者様、ご家族様からの、意見、要望、苦情について、それらの情報を関係職員に周知させると共に、施設長、各部署の責任者を中心にそれらの原因・対策を検討し、再発防止に努めました。

また引き続き投書箱を設置し、忌憚のない意見を聴取できる環境を整備しましたが、投書での苦情等はありませんでした。

また、契約時に施設の苦情担当職員と公的機関の案内も行いました。

(5) 安全管理について

①事故防止への取組みと事故発生時の報告体制

ご利用者様に関する事故については、ご家族様への通報を優先し、往診医の助言等を勘案して関係職員には病院への緊急搬送など、取るべき行動を指示しました。

災害（火事・震災）発生を想定した訓練、消防設備の取扱いについて指導しました。防災訓練は年1回実施しました。

②発生した事故の内容、件数、対応状況

(事故件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事故件数	1	8	1	5	8	1	5	3	5	1	2	1	41
ヒヤリ・ハット報告	1	0	1	0	0	1	4	0	0	0	1	0	8
うち医療機関受診案件	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2

(7) 地域交流（ボランティア受入れ等）の状況報告

本年度は、ボランティアの受け入れをありませんでした。

3 事業実績等

(1) 特別養護老人ホーム事業

①利用状況 ※在籍者数（入院等不在者を含む。）

ア 年齢構成別利用者数（各月末日現在）

（単位：人）

	～70 歳	71 歳 ～75 歳	76 歳 ～80 歳	81 歳 ～85 歳	86 歳 ～90 歳	91 歳 ～95 歳	96 歳 ～	合計
4 月	0	1	6	10	8	8	1	34
5 月	0	1	7	8	9	8	1	34
6 月	0	0	9	10	9	8	2	38
7 月	0	0	9	9	11	7	2	38
8 月	0	0	9	9	11	7	2	38
9 月	0	0	10	9	12	7	2	40
10 月	0	0	9	9	13	6	2	39
11 月	0	0	8	10	14	6	2	40
12 月	0	0	8	10	15	5	2	40
1 月	0	0	7	5	20	6	2	40
2 月	0	0	7	6	20	7	1	41
3 月	0	0	7	6	20	7	1	41
合計	0	2	96	101	162	82	20	463

イ 介護度別利用者数（各月末日現在）（単位：人）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	2	3	12	13	4	34
5 月	1	4	11	14	4	34
6 月	1	4	11	17	5	38
7 月	2	3	13	15	5	38
8 月	2	3	13	15	5	38
9 月	1	5	13	15	6	40
10 月	1	6	11	15	6	39
11 月	1	6	8	18	7	40
12 月	1	7	7	17	8	40
1 月	1	7	8	16	8	40
2 月	1	7	8	16	9	41
3 月	1	7	9	15	9	41
合計	15	62	124	186	76	463

ウ 地域別利用者数（令和4年3月31日現在の在籍者数）（単位：人）

川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	市内合計
2	0	1	5	27	0	0	35

横浜市	大田区	稲城市	姫路市	埼玉県	市外合計
2	1	1	1	1	6

エ うち「やむを得ない理由による」、実施機関別被措置者数
(平成29年3月31日現在の在籍者数) (単位：人)

川崎区	大師地区	田島地区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区
0	0	0	0	0	0	0	0
麻生区	市内合計			横浜市	その他県内	東京都内	市外合計
0	0			0	0	0	0

②行事等の実施状況

	行事等の内容(実施日)
4月	花まつり
5月	端午の節句
6月	開荘記念日
7月	七夕、土用の丑の日
8月	お盆、終戦記念日
9月	重陽の節句、敬老の日、彼岸入り、お中日、彼岸明け、十五夜
10月	十三夜、ハロウィン
11月	紅葉の会
12月	冬至、師走の会、年越しの会、クリスマス
1月	元旦、新年祝賀会、七草、鏡開き
2月	節分、初午、バレンタインデー
3月	ひな祭り、ホワイトデー、彼岸入り、お中日、彼岸明け

(2)短期入所事業

①利用状況 ※延べ利用者数（延べ利用日数）

ア 年齢構成別利用者数

（単位：人）

	～ 70 歳	71 歳 ～75 歳	76 歳 ～80 歳	81 歳 ～85 歳	86 歳 ～90 歳	91 歳 ～95 歳	96 歳 ～	合計
4 月	0	0	0	0	0	0	0	0
5 月	0	0	0	0	0	0	0	0
6 月	0	0	0	0	0	0	0	0
7 月	0	0	0	0	0	0	0	0
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	0	0	0	0	0	0
10 月	0	0	0	0	0	0	0	0
11 月	0	0	0	0	0	0	0	0
12 月	0	0	0	0	0	0	0	0
1 月	0	0	0	0	0	0	0	0
2 月	0	0	0	0	0	0	0	0
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0

イ 介護度別利用者数

(単位：人)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4 月	0	0	0	0	0	0	0	0
5 月	0	0	0	0	0	0	0	0
6 月	0	0	0	0	0	0	0	0
7 月	0	0	0	0	0	0	0	0
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	0	0	0	0	0	0
10 月	0	0	0	0	0	0	0	0
11 月	0	0	0	0	0	0	0	0
12 月	0	0	0	0	0	0	0	0
1 月	0	0	0	0	0	0	0	0
2 月	0	0	0	0	0	0	0	0
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0

ウ 地域別利用者数（年度内延べ利用者数）

(単位：人)

川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	市内合計
0	0	0	0	3	0	0	0

横浜市	その他県内	東京都内	その他	市外合計
0	0	0	0	0

(3) 地域包括支援センター事業

①利用状況 ※「地域包括支援センター業務実績報告書」に基づく

ア 相談件数

(単位：件)

相談者	本人	家族 親族	民生 委員	地域 住民	ケア マネ ジャー	サービス 事業所	医療 機関	区役所	その他	合計
4 月	60	56	5	3	26	11	10	10	1	182
5 月	51	60	1	4	32	18	10	10	3	189
6 月	35	56	1	2	18	28	4	2	3	149
7 月	40	67	2	8	28	14	5	9	4	177
8 月	23	55	2	7	22	17	14	4	3	147
9 月	33	47	2	2	24	17	19	9	3	156
10 月	34	51	1	6	25	21	8	8	6	160
11 月	35	57	0	3	19	19	11	7	7	158
12 月	40	57	0	5	15	17	12	6	7	159
1 月	44	75	0	0	18	17	18	9	5	186
2 月	30	57	0	2	20	11	13	9	5	147
3 月	37	49	0	2	24	17	18	2	9	158
合計	462	687	14	44	271	207	142	85	56	1,968

イ 相談内容（複数回答有）

（単位：件）

	介護 保険	高齢者 福祉	権利 擁護	医療 相談	安否 関連	生活支 援・そ の他	合計
4 月	123	36	10	18	2	86	275
5 月	111	33	7	23	2	71	247
6 月	103	19	6	26	5	38	197
7 月	118	20	13	12	5	57	225
8 月	100	6	9	17	7	49	188
9 月	99	26	12	18	5	70	230
10 月	110	19	9	22	5	56	221
11 月	90	30	10	16	12	43	201
12 月	111	15	6	18	3	54	207
1 月	147	24	3	27	5	46	252
2 月	109	12	6	24	1	38	190
3 月	128	21	4	18	4	47	222
合計	1,349	261	95	239	56	655	2,655

ウ 給付管理件数

(単位：件)

	給付管理件数		
	直営	委託	合計
4 月	83	122	205
5 月	86	112	198
6 月	90	118	208
7 月	93	114	207
8 月	94	113	207
9 月	98	109	207
10 月	99	109	208
11 月	105	111	216
12 月	100	112	212
1 月	102	112	214
2 月	100	106	206
3 月	107	103	210
合計	1, 157	1, 341	2, 498

4 まとめ

本年度は、稼働率を上げ収益を確保することを目標に努めました。しかしながら、川崎市全体の入所希望者の減少傾向に相交え施設の多さや利用者の入れ替わりが激しく思うように進みませんでした。

また人材確保においては、特定技能実習生を採用しましたが、転職などにより職員体制の安定も厳しくなりました。今後は、派遣職員も利用しながらサービス低下を招かないよう努めて参る所存です。